



理事長挨拶 ；

「日本を護る会レポート 54 号」をお届けします。年が改まり令和 7 年を迎えましたが、国内及び我が国を取り巻く情勢は益々厳しくなっております。ロシア・ウクライナ、イスラエル・ハマス等の問題、米国にはトランプ政権の誕生、そして我国の政治情勢等が激しく動いています。そのような中で当会は視野を広く、我国の在るべき姿を見失わず、進むべき道を求めて活動を続けたいと思います。温暖な楽しい春の季節を迎えて皆様が御健康で有意義な毎日をお過ごしになられます事をお祈り申し上げます。

理事長 大橋武郎

令和7年新年の昇殿祈祷及び新年会

日 時： 令和7年1月11日(土) 場 所： 金王八幡宮

「日本を護る会」は例年恒例行事として東京都内の有名神社に昇殿参拝をしておりますが、令和 7 年新年にはパワースポットの「金王八幡宮」に昇殿祈祷し、会の発展・心願成就を祈願致しました。

金王八幡宮は渋谷区指定有形文化財で徳川 2 代将軍秀忠の世、慶長 17 年 (1612) に造営されました。この社殿は、権現造りで江戸初期の様式をとどめ、都内でも貴重な建築の一つに数えられています。

御祭神の八幡大神は、「文武の神」「平和の神」「母子の神」

「心願成就、家内安全、防災招福」等として古くから信仰されておりますが、金王八幡宮ではこの他に「福德開運、厄除、良縁の神」特に「渡航交通安全の神」として、御神徳の高い神と崇められています。

参加者は 19 名で、令和 7 年 1 月 11 日 (土) 11 時に渋谷駅ハチ公前に集合し、そこからゆっくり歩いて約 15 分で金王八幡宮に到着いたしました。昇殿の時間まで少し間があり本殿脇の参集殿で待ち、12 時から昇殿祈祷を受けました。



新年会まで少し間がありましたので境内を散策し、参道の前で全員集合記念写真を撮って参拝は終了しました。



新年会は神社から歩いて3分の中華料理店「南国亭」参加者は16名お酒は飲み放題料理もオーダー次第多くの料理を食べ、午後3時に楽しく終了いたしました。

第109 回 定例会

演題 シンガポール・日本外交関係樹立60周年に向けて：両国関係の発展と未来

講師 駐日シンガポール共和国特命全権大使 オン・エンチュアン閣下

日時 令和7年2月22日(土) 14時～ 於：銀座サロン・ド・ジュリエ

令和7年最初に行います定例会は駐日シンガポール共和国特命全権大使オン・エンチュアン閣下を講師にお招きして地理的に中国やインドとの繋がりが深く、さらには交通の要衝であるマラッカ海峡を間近に控えて歴史的に複雑な背景を持つシンガポール共和国の実情及び我が国との繋がりに関して貴重なお話をして頂きました。

略歴：1968 年生まれ。

1993 年、日本政府文部省の奨学金により、工学学士号を取得して東京工業大学を卒業。

1994 年にシンガポール外務省へ入省。

2005 年 9 月から 2008 年 12 月までは首席公使兼公使参事官を務める。

2009 年 1 月から 2012 年 2 月まで、北東アジア局局长を務める。

2012 年 4 月から 2016 年 4 月まで、駐ベルギー王国のシンガポール大使を務め、

欧州連合、オランダ王国、ルクセンブルク大公国も兼任。

2016 年 5 月から 2023 年 5 月まで、外務省の副事務次官(マネジメント担当)を務める。

2023 年 6 月 12 日から駐日シンガポール共和国大使を務める。また、EXP02025 大阪・関西万博におけるシンガポール陳列区域の政府代表も兼任する。

2023 年 9 月 25 日、天皇陛下に信任状を捧呈



- ・公用語：英語・マレー語・中国語・タミル語
- ・首都：シンガポール（都市国家）
- ・面積：[719.2km²](#)



国旗



国章



講演の一部

シンガポールの困難な門出

現在、国際的なメディアでシンガポールは活気のある、国際的な都市国家として取り上げられ、日本企業を含むグローバル企業のハブとなっています。2023年の一人当たりのGDPはUSD\$74,500 (1100万円)を少し上回りドイ

ツや米国に追いつきます。シンガポールは社会経済指標でも良い結果を出しています。若者の90%高校教育修了資格を取得して学校を卒業しています。経済協力開発機構(OECD)による生徒の学習到達度調査(Programme for International Student Assessment, PISA)では、シンガポールの生徒は数学、科学、読解でトップでした。公営住宅政策により、シンガポール国民の約90%がマイホームを持てるようになりました。

多文化社会を築く

シンガポールストーリーは、さまざまな社会的・経済的課題を乗り越え、すべての国民生活を向上させ、結束した社会を築くという固い決意なのです。当時のリーダー達は、人種や宗教の潜在的な問題点に正面から取り組む必要性を理解していました。こうしてシンガポールは、人種、言語、宗教に関係なく、実力主義と平等の原則に基づく国家建設の道を歩き始めました。この決意はシンガポールと憲法と国民の誓いに明記されています。



日本はシンガポールの発展の初期において極めて重要な経済パートナーでした。日本はシンガポール独立後、シンガポールへ最初に投資した国であり、1970年代と1980年代では、シンガポールの最大投資国でした。日本は技術、製造、経営の知識をシンガポールに持ち込み、シンガポールの産業能力を育てました。これはシンガポールの急速な産業化をもたらし、特にエレクトロニクスと石油化学、そしてインフラの発展に貢献しました。住友化学と日本の投資家の共同体は1984年に、シンガポールに東南アジア初の石油化学コンプレックスを建設しました。「日本に学ぶ」キャンペーンでは、シンガポールの企業がジャスト・イン・タイム生産、品質管理、カイゼン（継続的改善）といった日本の経営・生産性の習慣を採用し、生産性と仕事の質を向上させました。日本のサービス業への投資は、シンガポールの地域サービス・ハブとしての地位を高めました。日本の銀行はシンガポールで強い存在感があります。三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行など、多くの日系銀行が現在シンガポールに地域本部を置いています。これらの銀行はシンガポールに深く根ざしており、三菱UFJ銀行は1957年から、三井住友銀行は1963年から、みずほ銀行は40年以上前からシンガポールに進出しています。貿易や投資以外にも、日本はシンガポールの発展の初期に政府開発援助（ODA）を通して貢献してきました。現在、シンガポールはJICAと連携し、「21世紀のための日本・シンガポール・パートナーシップ・プログラム」のもとで第三国研修プログラムを提供しています。これまで166の発展途上国から4万8000人以上の職員や個人を訓練してきました。現在、両国の強固な経済関係は、2002年に締結された日本・シンガポール経済連携協定（JSEPA）によって支えられています。これは日本にとって初めての二国間FTA（自由貿易協定）であります。それ以降、二国間貿易は2002年の3.5兆円から2024年には6兆円へと70%以上成長しました。シンガポールは現在、日本にとってアジア最大の投資国であり、米・英に次いで第3位の対日直接投資国です。2024年では、シンガポールに約3



万3000人の日本人が暮らしており、1,100社の日本企業が進出しています。シンガポールは強力な法治国家、ビジネス・フレンドリーな政策、戦略的立地により、東南アジア進出を目指す日本企業にとって理想的な拠点となっています。両国の協力関係は、スタートアップとオープンイノベーション、デジタルエコノミー、サプライチェーンの強靭性、エネルギー移行などの新興分野にも広がっています。また、相互学習という段階に向かう中、シンガポールは、フィンテック、デジタルエコノミー、IR、人材獲得といった分野でも、日本と経験を共有しています。シンガポール人は日本が好きです。昨年、シンガポールから日本を訪れた旅行者

は過去最高である 70 万人で、これはシンガポール人口の約 15%にあたります。両国の協力関係は、経済以外の分野にも広がっています。「日本に学ぶ」と同じ精神で、シンガポールの近隣警察署 (Neighbourhood Police Post, NPP) 制度は日本の交番をモデルにしています。シンガポールは現在、各地域に交番を設置しています。教育現場での協力は、人と人との強い関係を築いてきました。シンガポール教育省は、中等教育を受ける学生に対して、第 3 言語として日本語を学ぶ機会を提供しています。フランス語、ドイツ語、スペイン語ともに、日本語は、外国語学習プログラムで提供される、数少ない言語のひとつです。シンガポールは日本の文部科学省と提携し、シンガポール政府奨学金受給者に、文部科学省奨学金を提供しています。これは学生に日本への留学を奨励するものです。私もこうしたプログラムの恩恵を受けた一人であり、卒業後はシンガポールに戻り、シンガポール政府で働き始めました。学生として日本で学んだ期間に築かれた知識とネットワークは、二か国間の更なる理解と協力関係のために、これからも大きく役立つことでしょう。

シンガポールが日本と共に、更にできること

将来を見据えると、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序が、深刻な挑戦にさらされている今、シンガポールと日本が共にできることは、まだまだたくさんあります。持続可能性の分野では、両国はグリーンエネルギーとカーボンニュートラルへのコミットメントを共有しています。シンガポールは、水素エネルギー、スマートシティ、炭素回収技術などの分野で、日本と協力することができます。デジタルトランスフォーメーションは、もうひとつの有望な分野です。アジアで最も技術的に進んだ 2 つの国として、私たちは AI、サイバーセキュリティ、フィンテックの分野で協力を深め、イノベーションをけん引し、デジタルコネクティビティを強化していくことができます。また、世界的な不確実性に直面する中、私たちは経済の強靭性を強化し続けなければなりません。サプライチェーンの強靭性を強化し、二国間、地域間、多国間の経済連携協定を通して、貿易自由化をさらに促進することで、シンガポールと日本は、長期的な経済の安定を確保することができます。私たちは共に、より豊かで、相互の結びつきが強く、強靭なアジアを築くことができるのです。

最後に、シンガポールと日本の関係は、相互尊重と共通の志をもって、時間という試練に耐えてきました。2026 年に二国間関係樹立 60 周年を迎えるにあたり、これは、新たな協力の道筋を描き、今後何世代にもわたってパートナーシップを深めていくチャンスであります。シンガポールと日本が共有するビジョンと揺るぎないコミットメントにより、二か国間の関係は今後も繁栄し続け、両国および広い地域に、相互利益をもたらすと確信しています。

質 疑 応 答





第 110 回定例会

演 題 日韓の架け橋になられた李方子妃・日韓国交正常化 60 周年記念と展望

講 師 李 方子妃崇徳会 会長兼 KOREA TODAY 東京支社長 金 昌煥氏

日 時 令和 7 年 3 月 22 日(土)13:30～ 場 所 東銀座「サロンド ジュリエ」

「日本を護る会」は上記定例会の講演の主たるテーマとして一般には余り知られていない日韓両国の架け橋となられその交流・親善に多大な貢献をされた李方子(り まさこ)妃殿下の事績についての講演会を以下の通り行いました。

略歴:1956 年 韓国忠清南道 生まれ 新羅王家末裔第 61 代目

韓国で大学卒業後新聞・雑誌編集長記者

1994 年 渡来人研究会会長

1999 年 李方子妃崇徳会会長

2002 年 日韓共催ワールドカップサッカー共同応援団委員

2013,2015,2019 韓国 3 人大統領選挙対策東京委員長

2015 年 ミラノ国際博覧会人卒団長で公演

2023 年 民主平和統一諮問委員会委員・韓国尹錫悦大統領から任命

2024 年 韓国姓氏総連合会から日本支部会長を任命

現在、 国際ジャーナリスト、KOREA TODAY 東京支社長



講演内容

◆ 李方子(り まさこ)妃殿下とは

佐賀鍋島藩主を祖とする皇族梨本宮の第 1 女王子として明治 34 年(1901)生誕

日本の皇族に準ずる朝鮮李王朝の皇太子、第 28 代王となる予定であった李垠(り ぎん)殿下(1920-1970)と 18 歳の時ご成婚された。日本の敗戦後も韓国に渡れず日本に長く留まったが 1963 年韓国に帰国、1970 年李垠殿下は病没。その後も韓国に於いて長く福祉活動に取り組み平成元年(1989 年)没

◆ 時代背景

李垠殿下は10歳の時日本に留学、後に日本の軍人となる。李王朝皇太子に日本の皇族の娘を娶せるというのは日韓両国の永遠の基礎を築こうという伊藤博文を始めとする日本政府の遠大な計画に基づくものであった。方子は時の皇太子（後昭和天皇）妃候補であったがこの政略結婚の候補として選ばれ朝鮮王妃となる。やがて第1*子が生まれ3人で韓国へ里帰りするがそこから帰国間際にこの第1子が病没してしまう。一説には方子が我が子の毒殺を恐れ連れていくのを泣いて止めようとしたが韓国側のたつての要請に断り切れず連れていき結局この子を失ってしまうのである。結婚に対する韓国側の反発、また李王朝に日本の血が入ることに対する反発からの毒殺説があるがその可能性は否定できない。しかし李垠の優しい助けにより方子は立ち直りやがて日本の敗戦を迎える事になる。



李垠殿下・方子妃ご成婚(1920.4)

◆ 帰国

日本の敗戦により二人は収入の道を失う。李垠は韓国への帰国を願うが叶わない。この苦境に手を差し伸べてくれたのは昭和天皇をはじめとする日本の政財界人たちであった。韓国は依然として冷たかった。そして1961年韓国で軍事クーデターが発生しついに祖国が救いの手を差しのべてくれる事になった。この時李垠は既に脳血栓で倒れていたためベッドに横たわったままチャーター便で帰国した(1963年)。李垠は方子に見守られながら1970年息を引き取った。

◆ 方子の後半生

韓国に渡って以来方子は夫の看病を続けながら福祉活動に取り組んだ。障害を持つ子供の為の施設「明輝院」そして知的障害を持つ子供の為の「慈恵」学校を設立した。この為の資金は趣味の七宝焼きの作品や書や絵画を販売するボランティア活動により集めたのである。又方子は終戦時何らかの事情により韓国に残留した日本人妻や戦後韓国に渡り様々な事情を抱えた日本人妻の会の会長も務め助けた。

方子はその長く尽くした功績により「朝鮮のオムニ(お母さん)」と呼ばれた。



明輝園作業・方子妃

◆ その他

- ・「李方子妃崇徳会」は方子妃を顕彰するため講演会、パネル展、ビデオ上映会、勉強会を定期的に行っている。
- ・方子妃ゆかりの地-高麗神社(埼玉県日高市) 李垠・方子両殿下のお手植えの杉、東京ガーデンテラス紀尾井町 旧李王家東京邸
- ・方子妃著書「流れのままに」、「過ぎた歳月」、「動乱の中王妃」など多数、会場で回覧



- ◆ 方子妃は日韓両国のとこしえの友好を心から願っておられた。日韓関係は正常化から60年になる。この間サッカーの日韓共同開催も実現した。また平昌冬期オリンピックのスケートで1, 2位の日韓選手が抱き合い祝福しあうシーンを見て本当に日韓友好の時代を実感した。
- ◆ 桓武天皇の生母が渡来人系だったと上皇陛下の発言があったが日韓は2000年の友好交流を保っている。永遠の仲良し関係を発展させよう。 敬天愛人、未来へ！



小平奈緒と李相花選手



質疑応答



懇親会





事務局からのお知らせ

- * 当会の会計年度が7月から始まることから今年度は余すところ3カ月となりました。本年度の会費が未納の方には別途お知らせが届くことになっております。なにとぞ早急のお振込みを頂きたく、よろしくよろしくお願い申し上げます。
- * 事務局ではサポートをして頂ける方を探しています。どんなことでもお手伝いが頂ければ大変助かります。そのご意思がおありの方は是非事務局にご一報ください。経理事務、またはホームページ、フェイスブックの扱いなどが得意な方は大歓迎です。

今後の予定

第111回定例会

日時：4月26日（土） 14時

場所：銀座サロン・ド・ジュリエ

演題：「第二トランプ政権とは」

講師：緋田 順 氏

元 株式会社三井物産戦略研究所特別顧問

第46回研修会

5月（予定）

空自医学実験隊研修

第112回定例会

日時：6月14日（土） 14時

場所：銀座サロン・ド・ジュリエ

演題：我が国安全保障の根本問題関連（仮題）

講師：元空将 織田 邦男 氏

日本を護る会・レポート 第54号 令和7年3月発行

編集発行：認定特定非営利活動法人 日本を護る会

ホームページ：<http://awake-japan.sakura.ne.jp>

E-mail：awake-japan@googlegroups.